

視野を拓げるための学会：応用物理学会

JSPS : Field of competition, collaboration and co-creation where we have grown

東京工業大学 益 一 哉

Tokyo Institute of Technology, °Kazuya Masu

E-mail: president@titech.ac.jp

【1】はじめに

高専の学生にとって応用物理学会（以下、応物）といってもピンとこないだろう。私の限られた経験であるが、学会を紹介させていただこうと思う。

私は、神戸高専電気工学科を 1975 年に卒業した後、東工大に編入学し博士まで進学した。その後、東北大に 18 年、東工大に 18 年勤務し、2018 年から学長職にある。この間、半導体集積回路の研究に従事し、応物の春・秋の講演会、関係の研究会や国際会議での発表や、時にその運営にも携わりました。その一端を紹介する。

【2】学生の頃

高専学生の時に、電気学会と電子情報通信学会のポスターを見たことがある。強く勧められる人がいなかったのので、入会しなかった。最近では学生会員の会費も安いので、皆さんには私から強く応物への入会を勧めたい。

しかし、学会員になったとしても毎月送られてくる雑誌を見ているだけでは学会の良さや価値はわからない。自らが何か意識を持って行動しないと何も得られないことは、学会に限ったことではない。

さて、私が応物に入会したのは大学院修士 1 年の時である。研究成果を春の講演会で発表するためである。博士課程を修了するまで、春と秋の講演会は必ず発表した。同年代の他大学の学生と知り合ったり、指導教員の手伝いで研究会などに出向くと他大学の先生とも自然と話

すことが出来るようになり、多くのことを学ぶことができた。

【3】研究者として

大学に勤めてからが研究者としての活動が本格化する。特に講演会は、常に新しい情報が得られる刺激の場である。

応物の特徴は、アカデミアばかりではなく企業の研究者がたいそう多かったことである。特に半導体の研究をしていたからかもしれない。アカデミアの視点だけではなく、企業視点の研究開発を知ることができたのは、非常に有意義であった。研究が研究に終わらず出口や社会を常に意識することを学んだ。視野の広がりが重要であり、学会とは人とのネットワークを構築するひとつの有用な手段であると言える。

【4】おまけ

学会運営にそんなに真面目に取り組んだ訳ではなかったが、学生時代の恩師から講演会担当理事（2012 年から 2 年間）を務めるよう言われ、真面目に取り組んだ（笑）。そのためかどうか不明だが、副会長（2014 年から 2 年間）も務めた。当時の河田 聡会長からマネジメントの重要さや醍醐味を学んだこと、いや学んでしまったことがその後の私の人生を変えたことは今まで秘密にしていたことです。

応物から学ぶことは無限にある。

当日は私が応物から学んだ半導体のことやそれが今の学長職に如何に活かされているかをお話できればと考えている。